

<真剣味>⑩

2015.7.1

夏季大会を終えて、これから。

夏季大会終了後、3年生がミーティングを行いこれからの大會への臨み方について話し合いを行った。「会長杯・絆甲子園」の大会まで、これまで通り心緩まず「勝利を求めて」高いレベルでの練習に打ち込みたい。と強い決意を述べてくれました。これを受けた大會までの約1ヶ月、指導者も緩めることなく厳しく指導に当たっていく覚悟です。怪我人が何人かいるので、大會までの短い期間ですが完治するよう自分の行動をセーブしてもらいたい。

●今現在選手達に臨むことは、「強い気持ちで試合に臨めること」そして「何事もしっかりと準備してから臨むこと」。この2項目を考え、日頃の生活や練習、そして試合に臨んでもらいたい。

私自身は、昨年の我が家家のテーマである「挑む」、この気持ちが今年度は弱かったのかもしれません。とにかく挑戦者の気持ちを忘れず、どのチームにも挑んでいきたいと考えています。

<強い気持ち>打席に立った時には誰もが一人です。そこで監督からのサインが出て、相手投手との勝負。このプレーが苦手だから大丈夫かな！と思った時には多くの場合ミスにつながります。「あの時の1点があれば」勝てたのに、という状況にならないために、とにかく満足いくまで練習する。そして自信に繋げることが大切だと思います。大丈夫、大丈夫、絶対できると、うそでもいいから思うくらいまで高める。

28日（日）のティーバッティングの練習では数を決めて打つのではなく、バットの芯に当てていい音が出たら次のボールを打てるという約束でやってみた。力が入り、ミートポイントがズレ、集中がきかなかった。私とペアでやったS君はどんどん増えて24球くらい連續で打つことができました。やればやっただけ相手がトスするボールが止まって「見える」感覚までなったように思えました。簡単にはいかないかもしれませんのが続けば自信になり、打席には強い気持ちで立てると思います。

<準備する力>先のことを踏まえ、今何をするべきか考え、そして行動する。それによってスムーズに事が進むことが多い。道具の手入れは勿論の事、自分のプレー中で同じミスをしないために、何がいけないか反省し、そして繰り返し練習し、試合に臨む。その少しの準備ができるだけで、きっと良い結果にも繋がることでしょう。

手を合わせる。

私の両親は亡くなっています。その為、毎日水を変え、手を合わせています。また月命日には毎月お供え物を準備し、手を合わせます。毎日水を変えることが生活のリズムになり、心も落ち着きます。

先月、教え子の命日で、その現場に行き、手を合わせ、彼が頑張って野球をしていた頃のことを思い出すことができました。でももう一緒にやることはできません。

私自身は年齢を重ね、もう60歳になろうとしています。どこまで野球に携わっていられるか分かりませんが、不摂生をせず、悔いのない人生にしたいものです。